

大垣市（北陸圏・中部圏ブロック）

【計画期間 21年12月～27年11月】 ※ 期間延長適用後

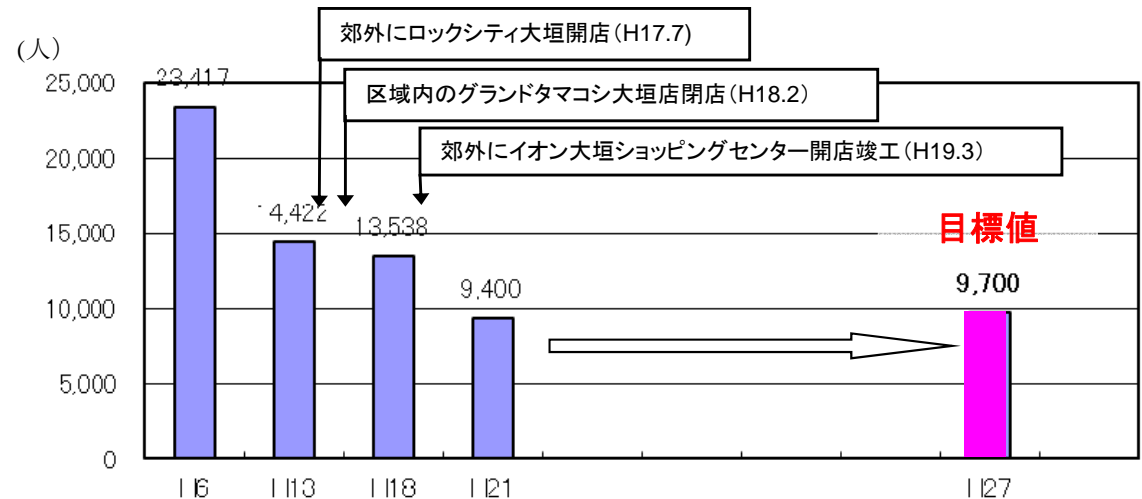
- ・江戸時代：戸田藩十萬石の城下町として発展
- ・戦後：岐阜県西部の中心的工業都市として発展

○大規模店舗の中心市街地からの撤退及び郊外への進出により、中心市街地の商業魅力が相対的に低下。

○大垣市全体の人口は増加傾向であるが、中心市街地の人口は減少に歯止めが掛からない。

目標	指標	現況値	目標値(H27)
にぎわいの創出	歩行者・自転車 通行量 (休日8地点合計値)	9,400人/日(H21)	9,700人/日
まちなか 居住の推進	居住人口	9,414人(H20)	9,537人

【休日歩行者・自転車通行量の推移と目標】



○歩行者・自転車通行量(休日8地点合計値)

H6: 22,926人 → H21: 9,400人 (▲63%)

○居住人口

H5: 10,897人 → H20: 9,414人 (▲14%)

■観光客などの来街者や商店街と大型店舗との連携・共存により、まちなかのにぎわい創出を目指す。

- ⇒主要事業: ①奥の細道むすびの地周辺整備、②大垣駅南街区第一種市街地再開発、
③大垣駅南北自由通路整備、④景観資源(四季の路・美濃路)の活用、
⑤(仮称)大垣駅通り商店街元気ハツラツ市 など

■都心の利便性を活かした住宅供給により、まちなか居住の推進を目指す。

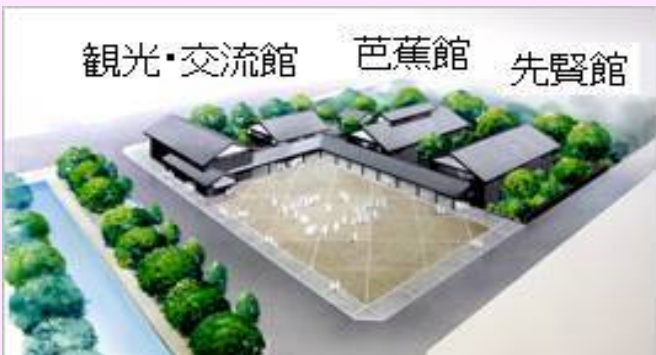
- ⇒主要事業: ①大垣駅南街区第一種市街地再開発、⑥分譲マンションの建設 など

大垣市中心市街地活性化基本計画の事業概要

まちなかのにぎわい創出

○奥の細道むすびの地周辺整備(①)

俳聖・松尾芭蕉が奥の細道の紀行を終えたむすびの地に、奥の細道むすびの地記念館(芭蕉館、先賢館、観光・交流館)の整備を行い、観光交流拠点とする。



○大垣駅南北自由通路整備(③)

鉄道で分断された南北市街地を結び連絡通路を整備し、歩行者の回遊性向上を図る。

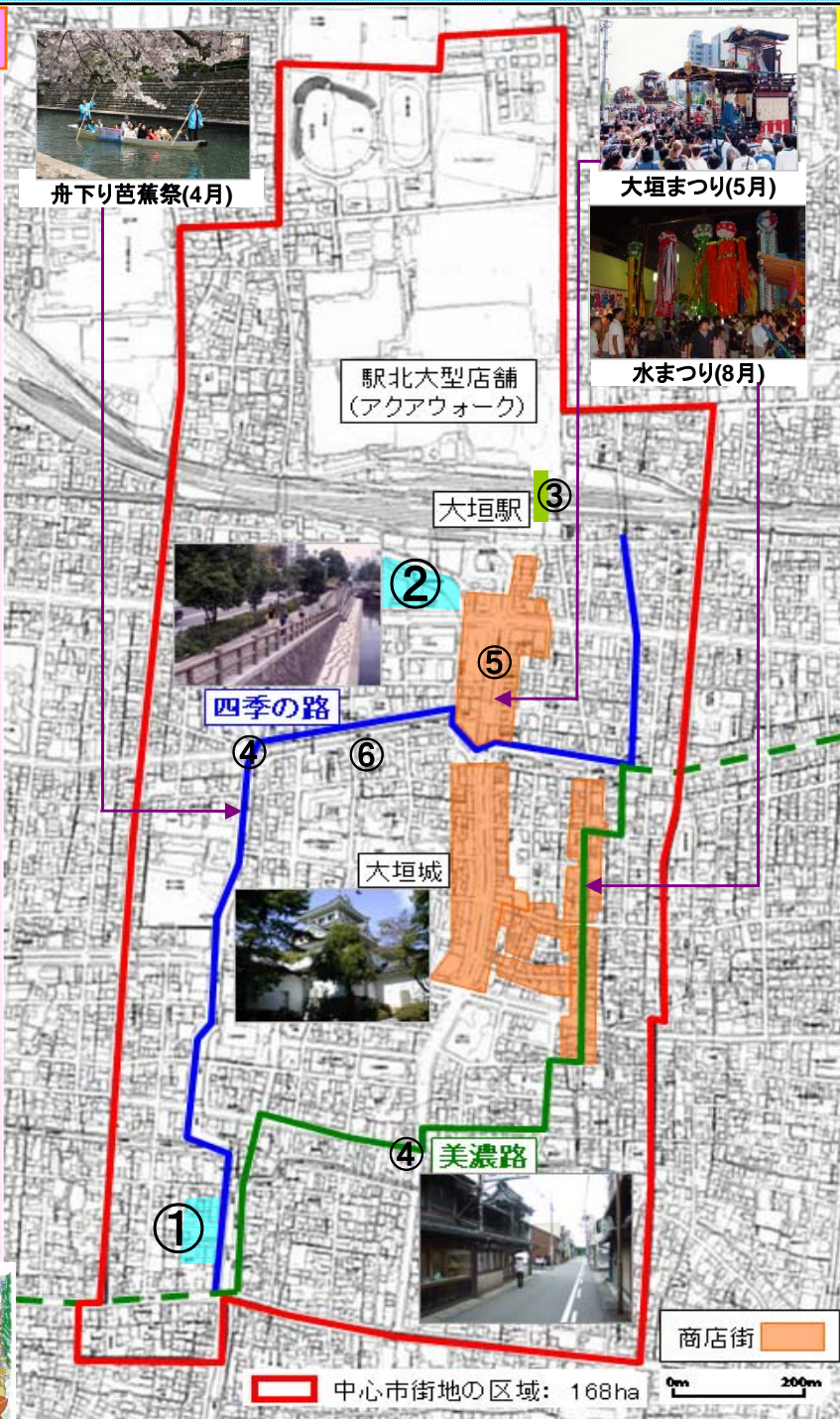


○景観資源(四季の路・美濃路)(④)

商店街と奥の細道むすびの地記念館を結び回遊ルートとして、芭蕉が読んだ句碑が建てられ、芭蕉の足跡を辿ることのできる水門川沿いの四季の路と、大垣宿の面影を残す美濃路を活用する。

○(仮称)大垣駅通り商店街元気ハツラツ市(⑤)

商店街の独自事業として、『市』を市民団体やNPO法人と連携して開催し、商店街への集客を図る。



まちなか居住の推進

○大垣駅南街区第一種市街地再開発(②)

低層部に商業施設、中高層部に分譲住宅を整備する。商業施設には、中心市街地に不足している業種の誘致を図る。
<17階建、150戸>



○分譲マンションの建設(⑥)

JA跡地に、民間事業者が分譲住宅を整備。
<15階建、41戸>



○プレミアム付商品券発行

商店街で使えるプレミアム付商品券を発行し、商店街での消費拡大を図る。

○共通ポイントカード発行

商店街と駅北大型店舗で共通で使えるポイントカードを発行し、中心市街地の買物利便性向上を図る。

○まちなか共同駐車券発行

商店街と大型店舗が共同で駐車割引券を発行し、中心市街地への集客を図る。